

二〇二三年三月

平城宮発掘調査出土木簡概報(癸)

奈良文化財研究所



116
赤外



38



135



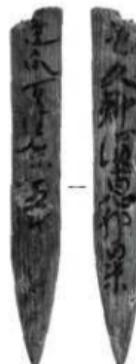
17表
赤外



17表



1



50

(1 : 2, 17 のみ 1 : 3)



117



119表
赤外



55
赤外



55



58



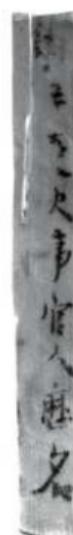
8



23
赤外



23



61



44



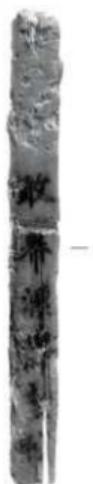
一



(1 : 2)



(1 : 2)



118
赤外



118



14



32
赤外



28
赤外



28



32



14



(1 : 2)



13表
赤外



13表



120
赤外



120



120



25
赤外



25



57



121



76
赤外



21



85
赤外



85



19



76
赤外



76



127



59
赤外



59



144



143



147



158
赤外



154



148



146



145



146



155



147

(2 : 3, 158 のみ 1 : 2)

この概報では、先に公刊した「平城宮発掘調査出土木簡概報（四十五）」（二〇二〇年三月刊）以後に平城宮・京跡から出土した木簡のうち主要なものを紹介する。対象の調査次数は平城第六二一・六三五次・六四二次調査である。以下に各調査および木簡出土遺構の概要を記すが、詳細については「奈良文化財研究所紀要二〇二二」を参照されたい。なお、巻末に新たな調査によつて叢文を補訂すべきことが判明したものも掲載する。

一、木簡の出土地点と状況

第六二一次調査（6AAE区）

（二〇二〇年三月～二〇二一年三月）

平城宮東方官衙地区の学術調査。これまでにも東方官衙地区では数次にわたる発掘調査を実施し、築地塀により区画されたいくつかの区画が存すること、区画の西側には平城宮の排水体系の基幹のひとつとなる南北大溝SD二七〇〇が開削されていたこと、などが明らかになっていた。

第六二一次調査は、官衙区画A南区と呼ばれる区画の西北部について、築地塀による区画やSD二七〇〇を利用した排水網などの実態把握を主たる目的として実施した。また、SD二七〇〇から官衙区画の性格を確認するための資料が出土することも期待された。調査区は東西二六〇m×南北三〇m、調査面積は七八〇m²（うち新規掘削は五二三・二五m²）である。

木簡は、すべてSD二七〇〇から出土した。溝埋土の洗浄および遺物整理作業が継続中のため出土点数は未確定であるが、総数は一万点を超える見込みである。なお、この第六二一次調査SD二七〇〇出土遺物については、奈文研が通常用いている三m四方の小地区（＝遺物取り上げの単位となるグリッド）を次頁の図2のようにさらに三分割し、東西三m×南北一mの単位で取り上げた。

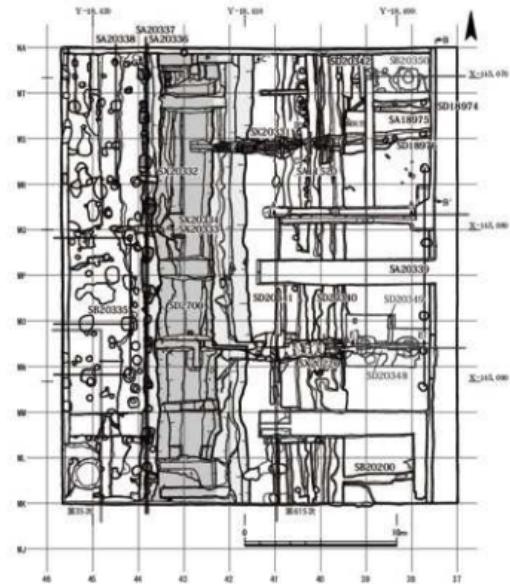


図1 第621次調査構造図

南北大溝 SD-二七〇〇

平城宮内における排水の基幹のひとつとな

る南北大溝。今回は約三〇m分を検出した。幅六・二~七・三m、深さ一・五~一・六mである。

奈良時代前半から平安時代初頭頃までの堆積層を確認した(図3)。最上層の褐色砂・暗褐色砂は平城太上天皇期のものとみられる綠釉陶器を含み、平安時代初頭頃に位置づけられる。その下の暗褐色粘砂は平城京からの遷都に間わり廃棄されたとみられる凝灰岩の廃材や瓦片などを多く含み、奈良時代末から平安時代初頭頃の堆積層とみられる。

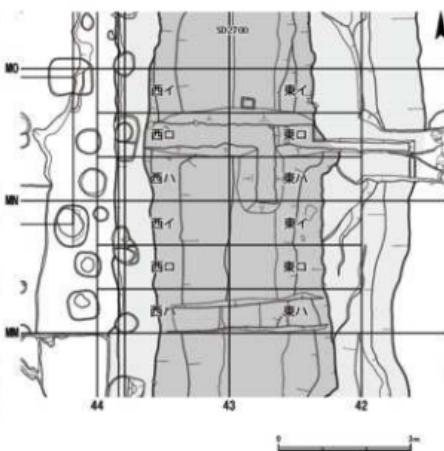


図2 第621次調査SD2700遺物取り上げグリッド図

奈良時代に関しては、肩口を違える形で、SD-二七〇〇機能時の堆積等の維持管理によるものとみられる。砂碟1は肩粘土1を西肩とし、出土土器から奈良時代末~平安時代初頭頃の堆積とみられる。砂碟2は肩粘土2を西肩、灰色粘土1を東肩とする。出土土器から奈良時代後半の堆積層とみられる。砂碟3は肩粘土3を西肩、灰色粘土2を東肩とする。出土土器から奈良時代前半の堆積層とみられる。

なお、西肩の肩粘土1~4および東肩の灰色粘土1~3については現在のところ、直線河道が維持されていることなどから、自然堆積層そのままでなく、SD-二七〇〇内に堆积していたヘドロなどが浚渫等に伴い両岸に寄せられた等、維持管理に伴

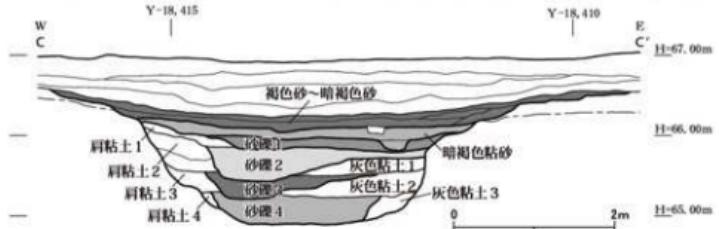


図3 第621次調査SD2700断面図

伴う人行為が加わった堆積であると考えている。ただし、最終的な判断は、SD二七〇〇の剥取資料を用いた地質学による検討結果等を待ち、それらを踏まえた上で行いたい。

第六三次調査(6AFJ区)

(二〇二一年二月～三月)

店舗新築に伴う事前調査。調査地は平城京左京三条一坊十五坪の東南部にある。周辺では奈文研・奈良市により数次にわたる調査が実施されており、十五・十六坪が一体で使用された二町占地であったことが判明し、また廂付きの大型建物などの複数の建物群や大型の井戸などを検出していた。

第六三次調査では、既往の調査と関連する遺構の確認と十五坪内における土地利用の実態の解明を目的として、東西一m×南北一〇mの調査区を設定した。調査面積は一一〇m²である。

主要な検出遺構は東西方向の柱穴列三条、および井戸SE一一五三〇である。これらの遺構はI～III期の三時期に区分でき、井戸SE一一五三〇は最も遅いIII期に位置づけられる。本筒は、この井戸SE一一五三〇から計三六二点（うち削屑三五五点）が出土した。すべてSE一一五三〇の木屑層からの出土である。

井戸SE一一五三〇 調査区西部で検出。掘方は東

西約一・八m×南北約一・七m、深さは約一・五mである。掘方底面で加工痕跡のある木片や檜皮、木簡などを含む厚さ一〇～二〇cmの木屑層を検出した。平城宮・京の井戸の掘方底面には淨化装置として玉石や木炭を敷くことが多く、SE一一五三〇の木屑層も同様の機能が期待されたものと考えられるが、類例に乏しく特殊な事例である。木屑層より上位は青灰色粘質土、黒褐色粘質土、黄灰色粘質土などを厚さ一〇～三〇cm単位で埋めている。

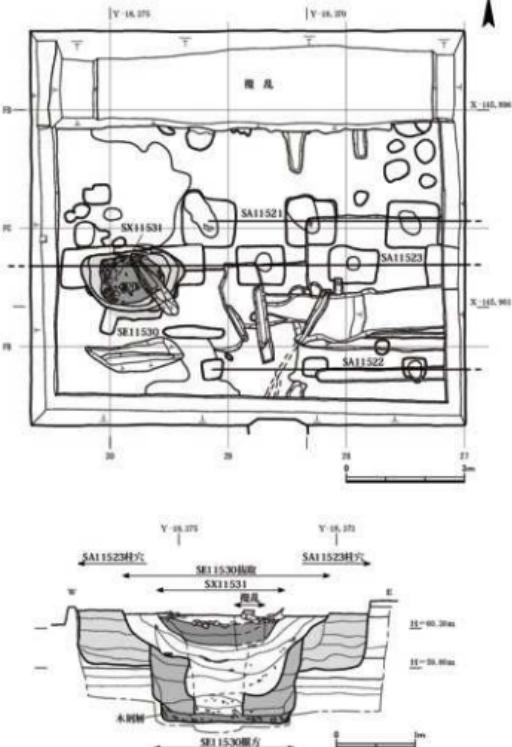


図4 第635次調査遺構図および井戸SE11530断面図

掘方中央で、井戸枠の抜取穴を検出した。井戸枠は完全に抜き取られていたが、抜取穴の断面・平面形状からみて、外径約60cmの円形を呈する刳り抜き式または縦板組みの井戸枠であり、東方向に抜き取られたと推定される。なお、抜取穴の最上面には黄灰色粘質土・褐色砂質土とともに瓦が多数敷き込まれていた(瓦敷SX一一五三一)。

第六四二次調査(6ADB区)

(二〇二一年一月一~二月)

住宅建設に伴う事前調査。調査地は平城宮西北部に位置する。周辺では奈文研による小規模な調査が何度か実施されている。当初は東西三m×南北二〇mの調査区を設定して調査を開始したが、調査区南端で東西溝SD二〇三一ーを検出し、埋土から木簡が出土したため、東側に東西三m×南北五mの拡張区を設けた。最終的な調査面積は七五m²である。

木簡は、東西溝SD二〇三一ーから二点(削肩なし)出土した。

東西溝SD二〇三一ー

調査区南端で検出した東西方向の素掘溝。溝の北肩のみ検出し、幅は最も狭い部分で約1m、深さは一・三~一・九m。溝底に擂鉢状の痕みが認められ、その一部に木質遺物や葉片が堆積していた。郷里制下の木簡や一世紀末~一二世紀初頭の土師器・瓦器が出土したことから、八世紀初頭から一二世紀初頭まで機能していたと考えられる。

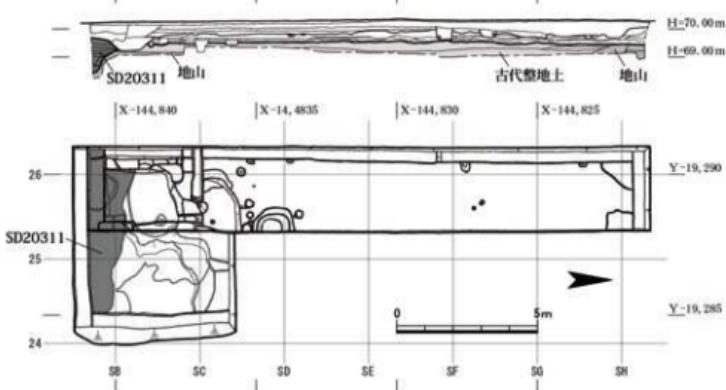


図5 第642次調査遺構図・土層図

二、凡例

(一) 本簡は、内容により、文書、付札、その他の順に排列するの原則とし、便宜的に通し番号を付した。

(二) 託文の漢字は、概ね現行常用字体に改めたが、「龍」「廣」「實」「證」「鵠」などについては上記の字体を使用した。

(三) 託文に加えた符号は次の通りである。

・ 本簡の表裏に文字がある場合、その区別を示す。

○ 本簡の上端もしくは下端に、孔が穿たれていることを示す。

… 同一木簡と推定されるが直接接続せず、中間の一文字以上が不明なことを示す。

□□□ 本目と直交する方向の刻線が施されていることを示す。

□□□ 欠損文字のうち字数の確認できるもの。

□□□ 欠損文字のうち字数が数えられないもの。

記載内容から、上または下に一字以上の文字を推定できるもの。但し、削肩については煩雑になるので、この記号は省略した。

△△△ 抹消により判読が困難なもの。

〔×〕 文字の上に重書して原字を訂正している場合、訂正箇付した。

所の左傍に・を付し、原字を上の要領で右傍に示す。

「」 異筆、追筆。

合点。

「」 校訂に関する註のうち、本文に置き換わるべき文字を含むもの。

「」 右以外の校訂註、及び説明註。

マ、カ 编者が加えた註で、疑問が残るもの。

マ、カ 文字に疑問はないが、意味が通じ難いもの。

(四) 託文下または左の上段のアラビア数字は、本簡の長さ・幅・厚さを示す(単位はmm)。欠損・二次的整形の場合、現存部分の法量を括弧付きで示した。なお、長さ・幅は本簡の文字の方向による。削肩については、法量の表記を省略した。

(五) 託文下または左の中段に、現在の遺存の形態を示す型式番号を記した。型式番号は次の通りで、四桁の数字を用いているが、本概報では時代を示す千の位を省き、下三桁で表した。

なお、端とは、本簡を本目方向に置いた時の上下両端をいう。

6011型式 長方形の材のもの。

6015型式 長方形の材の側面に孔を穿ったもの。

6019型式 一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などによって、原形の失われたもの。原形は6011・6015・6032・6041・

6051型式 のいずれかと推定される。

6021型式 小型矩形の材の一端を主頭にしたもの。

6031型式 長方形の材の両端の左右に切り込みを入れたもの。方

頭・主頭など種々の作り方がある。

6032型式 長方形の材の一端の左右に切り込みを入れたもの。

6033型式 長方形の材の一端の左右に切り込みを入れ、他端を尖らせたもの。

6039型式 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は

6031・6032・6033・6043型式のいずれかと推定される。

6041型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状に作つたもの。

6043型式 長方形の材の一端の左右を削つて羽子板の柄状にし、左右に切り込みを入れたもの。

6049型式 長方形の材の一端の左右を削つて羽子板の柄状にしているが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6041・6043型式のいずれかと推定される。

(六) 転文下または左の下段に、出土地点を示す小地区名（アルファベット・数字）を記した。Zは地区不明を示す。複数の地区から出土した断片が接続した場合は、地区名を+で併記した。第六二二次調査出土木簡には、小地区を三等分したグリッドの呼称「東イーハ」「西イーハ」（1頁および図2参考照）、および出土層位名も付した。

(七) 転文の出土地点の下に付した「*」印は、口絵写真に写真を掲げた木簡を示す。例えば、「*2」は「國版二」に対応する。

本書の作成は、都城発掘調査部平城地区史料研究室が行つた。木簡の訳説には、馬場基・桑田訓也・山本祥隆・垣中健志があたり、畠野吉則（現・立命館大学衣笠総合研究機構専門研究員）が補助し、有田洋子の協力を得た。編集に際しては、石谷美香・市岡由佳・勝部晶子・北野智子・小池綾子・杉本敬子・田中美香・寺尾淳子・廣瀬理恵・峯野信良・吉田瑞穂各氏の協力を得た。写真は企画調整部写真室の中村一郎・飯田ゆりあ・鎌倉綾の撮影による。なお、本書の編集は山本祥隆・垣中健志が担当した。

6081型式 折損・割裁・腐蝕その他によつて、原形の判明しないもの。

6091型式 削屑。

括弧内の番号は、二次的整形の場合に推定できる原形の型式番号を表す。

6065型式 用途未詳の木製品に墨書のあるもの。

6066型式

III. 稲文

第六二次調查

6 AAE

南北大溝SD-II七〇〇

1. 符諸前飯四升付若國

急上 七月廿三日
典膳高椅宮足

137・35・4 011 MR43 西△ 砂礫21 *2

5. 司解□

• 状云□ (42)・(11)・2 081 MT43 西△ 肩粘土1

4 内藏寮□ [解カ]

(42)・14・1 019 ML43 西△ 肩粘土2

[正七位下カ]

6 [状注 送以解カ]

□□申□□□

(147)・(9)・6 081 M043 西口 肩粘土2

7 内藏寮 移宮内省 合□□□

〔女カ〕
8 235・15・2 011 M042 東△ 砂礫2 *4

2. 内藏司解 申請火事 合史□□□□□部□ □

[七カ]

天平十年三月□日

3 舍人寮解 (97)・(15)・5 081 ML42 東△ 灰色粘土2

(352)・26・4 019 M042 東口 灰色粘土1 *4

8 · 右兵衛府移中衛府

□□□□□□□

· 使如件故移

13 · 内裏司 佑從六位下林連□受火事
□ □

(199) · (10) · 3 081 M0413 西ノ肩粘土 1 *3

198 · 37 · 4 011 M042 東ハ灰色粘土 1 *6
□ □月一日

〔省カ〕

9 □移衛門府 (155) · (18) · 2 081 MR43 西ハ砂礫 4

14 · 大伴門火事受少初位

上輕部□□□□□

10 中宮省移□ □

(149) · (28) · 9 081 M0413 西ノ肩粘土 2

15 · □ □

□□□□□
〔口料カ〕

11 · □仍注状故移
· □祢「麻呂」

〔宿カ〕

(161) · (15) · 3 081 M042 東ハ砂礫 2

□ □

□打錦鼓人四□□

□

12 □□右依例進上如□

〔件カ〕

16 · 去九月廿七日□

□□不參御金□

(239) · (18) · 2 081 M042 東口砂礫 2

□不參御金□

(87) · 19 · 2 081 MT43 西ノ肩粘土 1

〔籍事力〕

丹比門□□ 少属從八位上草良馬飼使主首麻呂

少属從八位下室原馬□□□□

〔飼力〕

□初□□□□廣嶋
少初位下秦□□豊足

〔寸力〕

□生正八位下□
〔史力〕无位高廣
〔私力〕

□ □

(505) · (39) · 4

081

MP42

東口

灰色粘土1

*2

18. 〔事大属力〕 〔紀朝臣力〕

□□□徒七位上□□□□

〔寶力〕 〔八力〕

□字□年□月廿五日

20. 請飯二具酒一升

天平三

□□大伴宿□〔倉人〕

〔將曹力〕 〔称力〕

□

(150) · (14) · 3 081 MM43 西イ 砂礫1

241 · 35 · 5 011 MS42 東イ 灰色粘土2

〔直力〕

□人事 合武拾武

21 廿五日下米十石出米一□

(115) · (28) · 1 081 MM43 西ア 砂礫2 *7

〔斗力〕

(155) · (14) · 4 081 MO43 西口 砂礫2 *7

22

□□三斗六升

□□□一升

(80)・(19)・4 081 MM43 西口 暗褐色粘砂

23 諸陵寮頭外從五位下土師宿祢千村

27 □ □ 十月 「白鳥犬養」

(156)・(15)・4 032 M042 東口 灰色粘土1

24 神龜五年五月一日從七位上行少錄勲九等日置造

28 □ 「家 □」事
□内□「家」「家」兵衛從七位上後部「仁福」
〔西門カ〕

〔西門カ〕

25 大伴馬養

元 七月十七日 □

(278)・(27)・2 081 MP43 西口 砂礫2 *5

□□□

□□□

□□□

□□□

□□□

□□□

□□□

〔月カ〕

〔紀カ〕

〔月カ〕

〔月カ〕

〔月カ〕

〔月カ〕

〔月カ〕

〔月カ〕

・ □十三日正八位上行少屬□朝臣「馬養」

・ 従六位下行少允飯高□「□□」

〔守カ〕

(134)・53・3 019 MA43 西口 肩粘土2 *6

26 □ □勲十二等坂本朝臣「大□」

(230)・(7)・6 081 MM42 東口 灰色粘土2

29 □

□

32

〔人カ〕

「止」

秦□桿

「止」

掃守野

・宍人臣足床

□月□日

〔廣カ〕

「止」

部□□

「止」

豊岡

93・56・5 065 MS43 西口 肩粘土2 *5

(134)・(10)・3 081 ML42 東口 灰色粘土1

〔阿戸カ〕

上道家主

右八人故

〔廣カ〕

「止」

部□□

「止」

豊岡

30 □□□□

□□

右八人故

〔廣カ〕

「止」

部□□

「止」

豊岡

31 □□

□□

尾張真立

〔廣カ〕

「止」

部□□

「止」

豊岡

(131)・(13)・4 081 MN42 東イ 灰色粘土2

〔廣カ〕

「止」

部□□

「止」

豊岡

32 □□

□□

尾張真立

〔廣カ〕

「止」

部□□

「止」

豊岡

33 □□

□□

尾張真立

〔廣カ〕

「止」

部□□

「止」

豊岡

34 □□

□□

尾張真立

〔廣カ〕

「止」

部□□

「止」

豊岡

35 □□

□□

尾張真立

〔廣カ〕

「止」

部□□

「止」

豊岡

36 □□

□□

尾張真立

〔廣カ〕

「止」

部□□

「止」

豊岡

※1・31段目は名前の上に刺したような痕跡あり。

(132)・(43)・3 081 ML42 東口 砂礫2 *4

(196)・(13)・6 081 MR42 東口 灰色粘土1

36 正八位□□□
正八位下□□
无位□□

(57)・(18)・6 081 MT42 東△ 灰色粘土2

40 左大□人 合十八
〔舍カ〕 大□

(263)・(15)・3 081 ML42 東□ 灰色粘土2

41 十三日 夕五十人 □□□

37 廿文 堅魚三節直錢
残錢□文

(127)・(12)・3 081 MP43 西△ 暗褐色粘砂

42 □ □ 六日 □ 七日 □ 八日 九日 □

(117)・(20)・5 081 MM43 西△ 肩粘土1

38 「桂子三」斗

「□栗子□斛」斗一升二合
〔干カ〕〔五カ〕

43 上枚郷一俵丸部□万品
〔片カ〕

216・23・3 033 MQ43 西△ 肩粘土4 *4

(203)・(26)・6 081 MS42 東△ 灰色粘土2 *2

39 一升 十二月廿八日

44 一 近江国坂田郡阿那郷戸主□□□□ 同□三□
〔敢穴人力〕〔郷カ〕

天平勝寶七歳九月一日

(72)・(11)・4 081 MT43 西△ 砂礫1 *3

- 45 • 近江国高嶋□
• 戸口岡□乙万呂庸米
(80)・18・2 019 MQ42 東ハ 砂礫2
- 46 丹波国何鹿郡交易
(139)・(21)・3 039 MS42 東口 灰色粘土1
- 47 隠岐国海部郡 布勢郷大浦里日下部
調海藻
172・18・5 031 MQ42 東口 砂礫2
- 48 美作国□□郡□□
(104)・28・2 059 MT42 東ハ 灰色粘土1
- 49 • 備前国藤野郡□□
• 木マ市麻呂□ □
(181)・22・5 039 MQ43 西ハ 砂礫2
- 50 • 邑久郡須恵郷白米
• □造爪万呂戸米五斗
(128)・20・4 059 MR43 西口 肩粘土1 *2
- 51 • 備前国□□□□□□
• 白米五斗忍海□□
138・28・5 033 MR42 東口 灰色粘土1
- 52 □□郡阿拝里□ □□□六斗
(218)・34・7 032 MM42 東ハ 灰色粘土2
- 53 紀伊国海部郡可太郷雜可里戸主海部□
(208)・32・3 039 MQ42 東ハ 灰色粘土2
- 54 阿波国美馬郡大□
(98)・(17)・3 081 MQ43 西イ 砂礫2

55	阿波国名方郡殖栗郷	秦破 □麻呂	三人庸米六	
(190)・22・4	019	ML42 東口	灰色粘土 1	*3
56	讃岐国鞠足郡	□□		[栗力]
			天平	
(92)・28・4	039	M043 西ハ	砂礫 2	
57	羽養車米五斗			
58	自和銅元年尽天平元年左大舍人			
寮考文	卅六卷			
154・28・5	032	MM43 西口	灰色粘土 2	*3
			※裏面に削り残りの墨痕あり。訛文には立てず。	
60	○第廿四櫛	95・31・2	011	MT43 西口
61	□牟須壳	年五十九	日參佰式拾玖	
	左		□	
62	中々	員外□		[坊力]
63	□□長生	年五十		
(188)・(8)・10	081	MM42 東イ	灰色粘土 3	
59	椎子	78・12・2	033	MS43 西口
60	〔×十〕	肩粘土 1		*7
61	□			
62	○第廿四櫛	95・31・2	011	MT43 西口
63	肩粘土 1			*4
64	椎子	78・12・2	033	MS43 西口
65	肩粘土 1			*7

〔初カ〕

64 □位下守少内記上毛野朝臣麻呂年卅六右京 日二百八十四

卅六

此

271・24・8 015 MR42 東△ 灰色粘土2

65 造秋篠院所 廿五日

□ □

(127)・(28)・4 081 MM43 西△ 肩粘土1 *4

〔寮カ〕

66 中宮職 図

248・(20)・2 081 MM42 東口 砂礫2

68 壱升

月十八日建

(54)・(16)・1 081 MK42 東△ 砂礫1

〔原真カ〕

69 事 □□□上大□□

(86)・(17)・1 081 MK43 西△ 肩粘土2

70 □ □

□ □

□部□麻□

67 紿正月廿五日

181・18・4 051 MR43 西△ 暗褐色粘砂

(160)・(15)・5 081 MN42 東△ 灰色粘土1

71	・	□□□豊人七月	
72	[件カ]	上□□□□	(196)・(14)・5 081 M042 東口 灰色粘土2
73	以前		(109)・(12)・5 081 MM43 西口 肩粘土1
74	人		(171)・(46)・2 081 M043 西口 肩粘土2
75	[弓取カ]	□□□□	(212)・(8)・5 081 MM42 東口 砂礫4
76		□上茨田連石麻品	105・25・2 011 MN43 西イ砂礫2 *7
77	爪工宿奈万品		(122)・(15)・7 081 M043 西口 肩粘土1
78	刑部造国持		(230)・(11)・6 081 MN42 東イ 灰色粘土2
79	伊美吉池守		(198)・(10)・7 081 M043 西口 肩粘土2
80	宿□赤麻呂		(82)・(7)・2 081 M042 東イ 灰色粘土2
81	朝臣子虫		(103)・(33)・1 081 M043 西イ 砂礫2
82	伊□□麻呂		163・19・4 065 MK43 西イ 砂礫2
	(187)・(16)・3 081 ML42 東イ 灰色粘土1		

83	□	□□勝成	(105)・(11)・5 081 MM43 西△ 砂礫1	84	□	□□佐伯	(133)・(7)・3 081 MR42 東△ 灰色粘土1	
85	麻呂	(111)・(29)・2 081 M042 東口 灰色粘土1	86	紀朝臣牟志壳	(111)・(22)・4 081 M042 東△ 灰色粘土2 *7	87	画墨画□布女	(157)・(22)・4 081 M042 東△ 灰色粘土2 *7
88	〔女力〕	87	〔人佐カ〕	86	画墨画□布女	85	〔人佐カ〕	(168)・(8)・5 081 M042 東口 灰色粘土1
89	〔位上佐伯	89	〔巨カ〕	90	下内藏弓十□	91	〔巨カ〕	(77)・(8)・5 081 MR42 東口 灰色粘土2
90	〔者カ〕	90	〔巨カ〕	91	〔巨カ〕	92	〔巨カ〕	(77)・(8)・5 081 MR42 東口 灰色粘土1
91	〔巨カ〕	91	〔巨カ〕	92	〔巨カ〕	93	〔巨カ〕	(149)・(9)・10 081 MT42 東△ 灰色粘土1
92	〔巨カ〕	92	〔巨カ〕	93	〔巨カ〕	94	〔巨カ〕	(149)・(9)・10 081 MT42 東△ 灰色粘土1
93	〔巨カ〕	93	〔巨カ〕	95	〔巨カ〕	94	〔巨カ〕	(24)・(6)・3 081 ML43 西△ 肩粘土2
94	〔巨カ〕	94	〔巨カ〕	95	〔巨カ〕	95	〔巨カ〕	(129)・(19)・5 081 MN42 東△ 灰色粘土2
95	〔巨カ〕	95	〔巨カ〕	96	〔巨カ〕	96	〔巨カ〕	(129)・(19)・5 081 MN42 東△ 灰色粘土2

96	大初位下	□□	〔仕カ〕	102	□丁	□□	(119)・(10)・5	081	MQ42 東口 灰色粘土2
97	大初位下	□		(85)・(18)・3	081	MS42 東口 灰色粘土2			
98	右大舍人	□		(39)・(11)・6	081	MP43 西口 砂砾2			
99	内藏寮少属大			(124)・(15)・4	081	MP43 西口 肩粘土2			
100	部省	□ □		(96)・(7)・4	081	MS7Z	103	□	采女
101	省掌	□□		(45)・(33)・2	081	MR42 東口 灰色粘土2	104	□	典侍
102				105	□□□□受取	□「五」又六			
103					172・28・1	051	MQ42 東口 灰色粘土3		
104					□守	□「百十八」			
105									
106									
107		〔斗〕升カ〕		(93)・(7)・1	081	MQ43 西口 灰色粘土2			
		□□□□□		(120)・(20)・2	039	MS43 西口 砂砾1			

108	大□	[調カ]	男
109	□□六人	(279)・(5)・7 081 M042 東口 灰色粘土1	(101)・(14)・7 081 MP42 東口 砂礫2
110	歲前□□	(192)・29・5 019 MN42 東彳 灰色粘土2	
111	・□ □□□□□	[錢羅カ]	
112	天平四年十月一日		
113	六月八日□	(388)・(51)・5 081 MP42 東口 灰色粘土1	(54)・(13)・1 081 M043 西八 砂礫1
114	□	[塙カ]	□一顆
115	炭燒	(112)・(29)・5 081 MS43 西八 肩粘土1	
116	・□ □	[奈久毛利阿カ]	
	・□□□□	倭歌毫首多□□□□□米布良奴	
	・□□□□	[倭カ]	
	・□□□□	[工カ] [夜カ]	
	・□□□□	米麻□利□止加々布佐米多	
	夜		
117	・子曰田□子子高孔子□	(右側面)	301・31・6 011 ML42 東彳 灰色粘土1 *1
	・酒酒醉酉年酉人綱綱□		
	・□		
	・□	(左側面)	
118	六月八日□	(186)・19・9 019 M042 東八 灰色粘土1 *3	

118 □徵萬□風能福之常

敢幕漂□□則

122 省□

宮內省

169・18・4 011 MQ42 東ハ 灰色粘土 1 *5

□ □

(77)・(16)・1 081 MR43 西ハ 肩粘土 2

干物部□

119 □□□□官人歷名
〔受火事力〕

□ □

187・24・2 011 MP43 西口 肩粘土 2 *3

□ □

123 □□□无位額田部連廣君右兵衛无位額部田連廣□
〔右兵衛力〕

□ □

120 売拾□常達奈□□ □□

〔×人〕

□ □

会学□□何事

□ □

121 売拾□常達奈□□ □□

〔兵力〕

〔成成力〕

〔枚夫力〕

〔必カ〕

大宅人□□□

□□□

121 主計寮主稅□□
〔寮力〕

〔為カ〕

〔成成力〕

〔枚夫力〕

〔必カ〕

「王□奴□□子」

(123)・23・2 019 MR42 東イ 灰色粘土 2 *7

125	• 上上	上上上□	130	• □ 大大	□
	• □更大□□大□□			• □□□□	(148) • (10) • 081 M043 西八 砂砾2
	□ □ □				
(128)	• (9) • 2 081	M042 東□ 灰色粘土2	131	鳴鳴	(67) • (12) • 4 081 M043 西□ 肩粘土1
	〔鳥居カ〕				
126	岡岡 伊伊飛□□□		132	天平元年 (木□)	
				長和(76) • 侄21 061 (棒軸)	M042 東□ 灰色粘土1
127	• 成成衆□		133	• □□□	
	• 鶲□□□				
(157)	• (13) • 4 081	MR43 西□ 砂砾2 *7		• 天平四年	
128	• 上谷谷□□		(41)	• 20 • 4 061 (題籤軸)	MK42 東□ 灰色粘土2
129	• □道道				
	• □□□				
(60)	• (15) • 5 081	MT42 東□ 灰色粘土2			
	〔蓋カ〕				
	文				
(34)	• 23 • 6 061	(題籤軸)			
(158)	• (23) • 6 081	MR43 西八 砂砾2	M042 東彳 暗褐色粘砂		

135	志太郡 駿河国 富士郡	225・61・9 065 M043 西△ 肩粘土2	*2	140	□ 料 年 料 条	□ □ □ □
136	□ □ □ □ □ □ □ □ 曾尔□ □ 手移□ □ □	(297)・33・8 065 M043 西□ 肩粘土4	141	• □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	(132)・(15)・5 081 MN42 東△ 灰色粘土2	
137	〔栗カ〕 □ □ □ □ 水 □	(23)・(22)・3 065 MM43 西□ 肩粘土4	142	[□ □ □ □ □ □ □ □ □ □	- 22 -	
138	• □ □ □ □ 水 □	(89)・(19)・2 081 ML42 東□ 灰色粘土2	143	[□ □ □ □ □ □ □ □ □ □	(363)・(33)・3 081 MM42 西□ 砂礫2	
139	• □ □ 名 参 人 □ □ □ 者	(247)・(21)・2 081 M043 西□ 肩粘土4				

第六三五次調査

6 A F J

#III-O

143

□各六十文 □ □

〔長力〕
□□梁一 □□

091 FB29 *8

□四日 御大知万呂

□□瓦運

091 FB29

□ (107) * (15) * 2

081 FB29 *8

伊賀福久礼 □

(墨カ)

091 FB29

144 (108) * (15) * 3

081 FB29 *8

長自中 □□

091 FB29

145 蒲原

(142) * 24 * 2 033 FB29 *8

150 七十文

091 FB29

146 □ 廣七寸半

091 FB29 *8

151 七十文

091 FB29

□□□ 下厚六寸半

091 FB29 *8

152 □

091 FB29

147 □ □長一丈八尺

091 FB29 *8

大夫状 □□

091 FB29

153 六月廿九日 □人

091 FB29

091 FB29

6 A D B

第六四二次調查

091 FB29 *8

東西溝の△△○△△△

091 FB29

154 常食口
□高廿一以□155 □米 六□□
〔料カ〕156 □米 六□□
〔料カ〕

091 FB29

157 □□□ □
〔料米カ〕158 • 美濃国當嗜郡山前郷
• 山□里私部小比礼米六斗

212・27・2 051 SB25 *8

(80)・22・3 039 SB24

159 分米□
〔六カ〕

既報告木簡紙文訂正

『平城宮発掘調査出土木簡紙報（十一）』 一一四下段（八一）

・上総国猪腊二斗

〔和カ〕

・□銅一二年十二月十八日

190・23・4 032 TN44

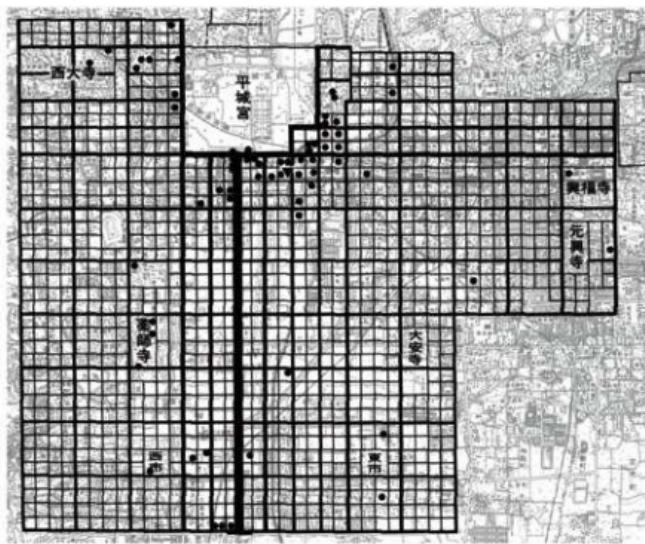
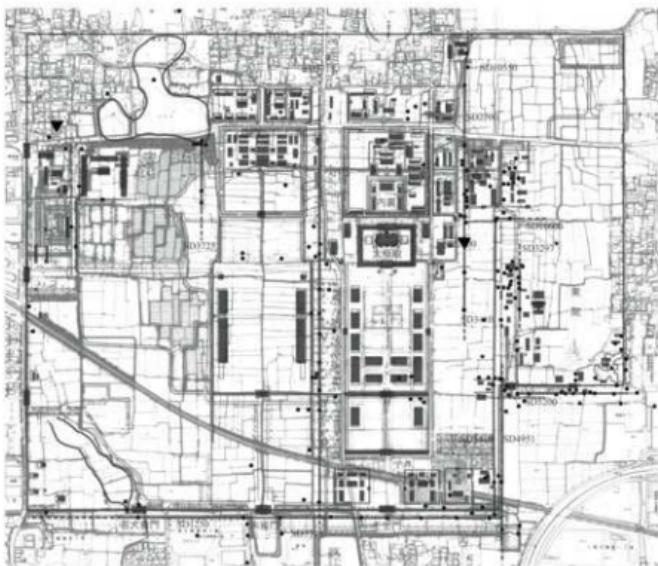
『平城宮発掘調査出土木簡紙報（三十一）』

一一七頁下段（三九三）

〔拾カ〕

望太布□端

(99)・27・2 019 U042



平城宮跡(上)・平城京跡(下)木簡出土地点図
(●木簡出土地 ▼本号掲載木簡出土地)

二〇一三年三月二七日印刷
二〇一三年三月三一日發行

平城宮発掘調査出土木簡概報（四十六）

編集・発行 独立行政法人国立文化財機構
奈良文化財研究所

〒六三二〇八五七七
奈良市二条町二十九一

TEL ○七四二一三〇一六八三七
FAX ○七四二一三〇一六八三〇